

令和元年度

佐倉市議会 意見交換会

報告書

令和元年11月16日（土）

佐倉市役所議会棟

## 〔 開催概要 〕

○テーマ 『佐倉市における農業の現状と課題について～魅力ある佐倉農業を目指して～』

○日時 令和元年11月16日(土) 午前10時～正午

○会場 佐倉市役所 議会棟

●全体会議：全員協議会室

●グループ会議：第二委員会室、第三委員会室、第四委員会室

### ○開催内容（会議次第）

1 開会

2 全体会議

(1) 主催者あいさつ	佐倉市議会議長	石渡 康郎
(2) 開催趣旨の説明	広報公聴委員会委員長	高木 大輔
(3) 市の概況などの説明	広報公聴委員会副委員長	斎藤 明美

3 意見交換（グループ会議）

4 閉会

### ○参加者 27名

・新規就農者	3名	・直売所	2名
・女性農業者の会	2名	・稲作組合	2名
・有機農業者	3名	・農業法人	3名
・アイガモ農法	1名	・新規作物導入農家	3名
・生谷農苑食環組合	1名	・若手農家	2名
・農協	3名	・給食食材提供農家	2名

### ○出席議員 27名

議長：石渡 康郎、副議長：爲田 浩

議員：松島 梢、川口 絵未、高橋 とみお、宇田 実生子、齋藤 寛之、石井 秀明、  
押木 孝和、鍋田 達子、密本 成章、岡野 敦、稲田 敏昭、木崎 俊行、  
徳永 由美子、山本 英司、斎藤 明美、敷根 文裕、高木 大輔、五十嵐 智美、  
萩原 陽子、藤崎 良次、平野 裕子、久野 妙子、岡村 芳樹、櫻井 道明、  
中村 孝治

## 〔 主な意見 〕

### 【生産面】

#### ○担い手問題(後継者問題、新規就農者など)について

- ・担い手不足は深刻で、定年者を待って雇用しているのが現状。
- ・後継者探しが大変で、子供に無理やりやらせるのも考えものである。
- ・やまといも生産に関しても後継者不足で現状の面積を維持するのが今後困難になる。研修にも悩んでいる。新規就農者にやまといもを紹介して維持していきたいので、新規就農窓口で希望者を募ってほしい。
- ・施設や資機材などのコストに対して売値が安く、儲からないので、後継者ができない。親子で生産を行っているが、担い手である子供にきちんとした給料を払うことができない。利益が出る仕組みづくりが必要。
- ・補助金等市の政策も必要。
- ・T P Pなど貿易が自由化され海外から安い農産物が入ってくる。価格競争になり収益が上がらない。
- ・農業自体には魅力があるが、生産性が保証されず、収入が伴わない。
- ・地方では地域行事などでのつながりが面倒で若い人(子供)が地域から出ていってしまうことがある。
- ・新規就農者が参入しやすい法整備が必要。  
(50アールルールがある。※千葉市は40アールなど地域により差がある。)
- ・定年起農の人に50アールは大きすぎて厳しい。生計が成り立つ広さの農地があればいいのに、不必要な土地も借りざるを得ない。
- ・新規参入は大規模ではできない。(各市の条件は悪いが、佐倉市はオープンで熱心に対応してくれたので、佐倉市で起農した。)
- ・佐倉市での新規就農者が多いのは、市の対策が他より良いからだと思うがもっと政策を考えてほしい。
- ・新規就農者に対して金銭的支援だけでなく、空いている農地や地域の農家の紹介もしてくれた。佐倉市は門戸が開かれていると感じるし、新規就農がしやすいということを広く周知すべきである。
- ・佐倉市農政課はとてもよくやってくれているが、農業指導者からのセミナーの開催など、経験が無い人も継続的に農業を続けられるように新規就農者を育ててほしい。
- ・新規就農に費用がかかったが、補助金もあり、現在順調に推移している。また、生産者の仲間の集まりに参加することで人脈が広がり、技術等に関する情報交換や販売先も確保できた。
- ・新規就農者が田畑を借りたくても貸してもらえないことが多い。就農中の方には貸してくれるので、行政が間に入って対応してほしい。
- ・やめたい人からビニールハウスを受け継ごうとしても、古いものなので修理やメンテナンスに費用がかかり過ぎて引き継げない。補助金等での支援を希望する。
- ・佐倉市は広大な面積の畑はなく、作れる作物が限られている。また畑で作る作物は、高付加価値の作物がいい。

- ・広域展開する農業法人に対し、行政の枠を超えた調整や連携が必要である。
- ・若い人が参入するには、販路先開拓が課題である。

## ○品質の維持・向上(有機農法、ブランド化など)について

- ・いすみ市や木更津市は給食に地元有機米を100%使用している。佐倉市も地元の安全な米を使うことを考えてほしい。  
⇒佐倉市も地元ブランド「めしあがれ」を使用している。
- ・なかなかブランド品がない。市場出荷は量がないと厳しい。
- ・農家数が減少し、量を集めるのが難しくなっている。
- ・生産費は各々異なるが、アイガモ農法等付加価値を高めて販売している。(お客様とのコミュニケーションを良くし、理解を深めていただいている。)
- ・海外では日本の米はヘルシーで有名になっている。もっと地元産をPRすべき。
- ・「やまといも」は唯一ブランド化できており、和田地区以外でも生産できればいい。
- ・行商の歴史があり多品種をつくる畑が多く、一つの品種に絞れない。
- ・佐倉は米で行くべき。田んぼが多いので米を使ったブランド化はどうか。米粉を使ったパン、新品種「つぶすけ」、もち米で「佐倉餅」など。

## 【流通面】

### ○販売方法(直売所、ネット通販など)について

- ・米は消費量が伸びない現状もあり、国が対策を考えないといけない。
- ・直売所は他よりも安い価格で出しているが、売り上げは落ちている。
- ・地元産のものを求めている方や他市から来るファンの方もいるが、量の不安定さや近所のスーパー等での利便性により、直売所の売り上げ全体が下がっている。
- ・農政課の支援もあって生産から加工まで頑張っているが売る場所が無い。卸売りは、たたかれるので直売所が良い。
- ・消費者が毎日来てくれるような販売所が欲しい。
- ・農産物や加工製品を売るための「道の駅」などの大きい販売所がベイシア辺りにあると人が入ると思う。
- ・値決め、市場セリでたたかれる。安定的な金額で出荷できるとよい。
- ・佐倉市にももっとPRしていただきたい。
- ・病院や介護施設等にもっと市内のものを使ってもらえるように市からも言ってほしい。
- ・輸出も考えていかなければならないが、個人ではハードルが高い。官民あげて考えていかなければならない。
- ・ブランド化を目指しても購入される方が少なく、価格の安い物になってしまう。
- ・ネット通販はマージンが相当取られるため、売上の期待は薄い。
- ・佐倉の人に地域のもを食べてほしい。また食育などの教育にもっと力を入れてほしい。
- ・近年、行商の代わりに直売所で販売している。
- ・品質の良いものをしっかりと価値を付けて値段設定をしている。
- ・都内に自ら飲食店を作り、生産物の9割をそこに納品している。
- ・付加価値が付けられれば、販売価格を決められる
- ・ネット販売より地元で売りたい。少量ロットでもできる。

- ・人が集まるイベント等での販売は好調である。
- ・近隣の道の駅に卸しているが、販売は好調である。

### ○加工販売(6次産業化など)について

- ・6次産業を小規模で成り立たせることは困難である。現状では良いものを生産し、直売で頑張るしかない。
- ・農産物によっては6次産業化は難しいものもある。
- ・農家に求めすぎている。個人の農家だけでは加工が難しいため、加工してくれる企業との橋渡しをしてほしい。
- ・単純に6次産業化すれば大丈夫なのではない。市場調査など需要をよく見てから行う必要がある。
- ・加工販売としては、赤飯や炊き込みご飯、ジャムを加工し、年間を通して直売所へ卸している。
- ・6次産業も先業がいるので難しく、農業の本質ではない。行政と協力して体制づくりをしたい。

## 【環境面】

### ○農業を取り巻く環境問題(耕作放棄地、環境保全機能など)について

- ・田については、一筆が小さく、変形して使いにくい＝機械が入りにくい。また沼地が多く機械作業がやりにくい。
- ・土壌が分散しており、移動が大変であるうえ、費用がかさむ。
- ・畑については、境界に杭が打っており、機械が使いにくい。今後境界線の方法を変えていくべき。
- ・耕作放棄地が増え、病虫害も増えている。
- ・耕作放棄地は早く対応しないと、使えなくなる。3年経つと厳しい。
- ・大雨等の治水においても、農業が環境面で果たす役割は大きい。
- ・台風の影響でいろいろと被害が出たが、迅速に対応してほしい。
- ・自己所有のハウスの再建にしか補助金が出ない。借りている人は全額自己負担となっており、その方々にも少しでも補助をお願いしたい。
- ・手付かずの山林が多く心配。森林伐採で畑がやりやすくなるので、竹の伐採等の整備が必要であり、森林環境譲与税を有効活用すべきである。

### ○多面的機能支払交付金について

- ・非常に助かっている。農家を守るだけでなく、環境保全の面からもとても良いが、集落の合意がなければできないことや、手続きが複雑、煩雑であり大変である。
- ・導入しているか否かで地域格差があるので促進するべきである。

### ○害獣問題(イノシシ、ハクビシンなど)について

- ・イノシシ被害が出てきている。足跡も見ると、昼に出てきて稲穂を食べていることもある。人への被害が出ないうちに対応すべき。
- ・景観の問題でもあり、雑草等を刈り取り、イノシシ等が隠れる場所をなくすことが重要。

- ・イノシシの被害がかなり出ている。よその電気柵から逃げて来たイノシシのため電気柵を導入する予定。
- ・JAブルーベリー部会では、鳥の被害、ウサギにかじられる被害の報告を受けている。

### ○自然災害(水害、台風など)について

- ・台風被害を受けたが、市・県・国が動いてくれたことに感謝。
- ・治水問題等これからも同じような台風が来ると思われるので、市は県・国を巻き込んでの対策をお願いしたい。
- ・温暖化により、カメムシの問題、白化の問題が出てきている。また作付けがどんどん早くなってきている。
- ・印旛沼の水を利用しているとイメージが悪くなる。(ブランド化どころではない。)水質浄化をお願いしたい。
- ・稲作農家では台風被害により苗を育てるビニールハウスが大きな被害を受けた。
- ・河川沿いを整備してきれいにしてほしい。
- ・自治体によって災害後の対応に違いがある。迅速な金銭面の補助と同時に、農家のケアや手続きも速やかにしてほしい。(災害で農家がつぶれない仕組み。)
- ・リスク分散を行うために、多品種の耕作が必要。
- ・台風被害における補助金申請は煩雑であり、スピード感がない。
- ・広大な面積なので農地には保険がなく、建物のみ。
- ・保険、共済加入に関する佐倉市の対応は迅速だった。
- ・リスク分散のため千葉以外でも農業を考えている。

全  
体  
会  
議



◆主催者あいさつ(議長)



◆広報公聴委員長あいさつ



～ 参加者の皆さん ～

グ  
ル  
ー  
プ  
会  
議



← 第2委員会室

第3委員会室 →



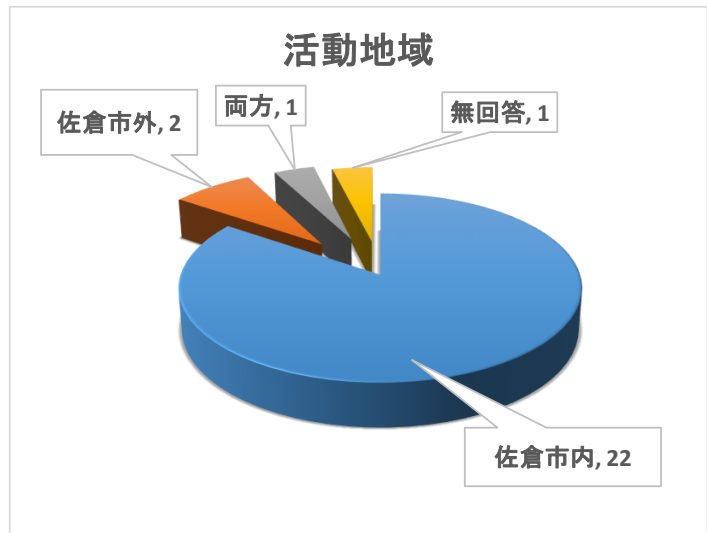
← 第4委員会室

〔 参加者アンケート集計結果 〕 （参加者27名中26名から回答）

1. ご自身のことについてお聞きします。

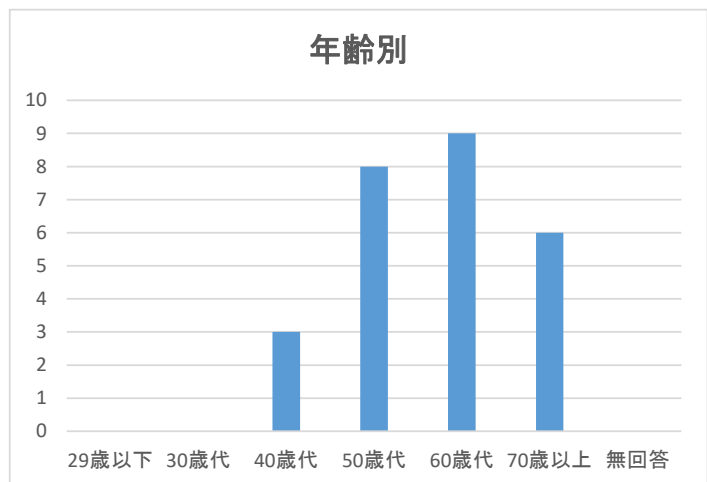
(1) 主な活動地域

佐倉市内	22
佐倉市外	2
両方	1
無回答	1
計	26



(2) 年齢

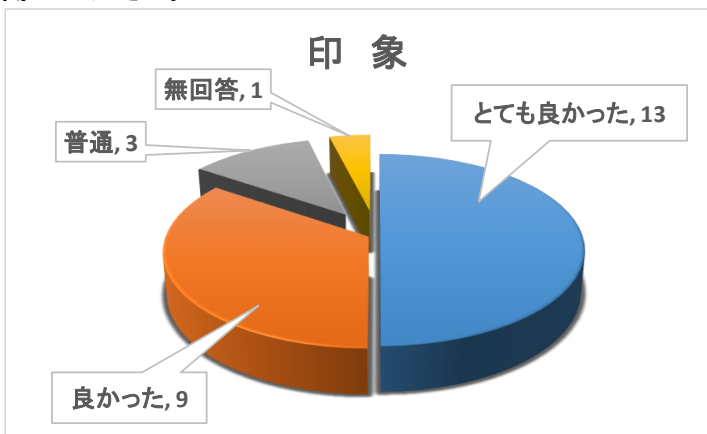
29歳以下	0
30歳代	0
40歳代	3
50歳代	8
60歳代	9
70歳以上	6
無回答	0
計	26



2. 意見交換会の内容についてお聞きします。

(1) 今回参加してみたの印象についてお聞かせください。

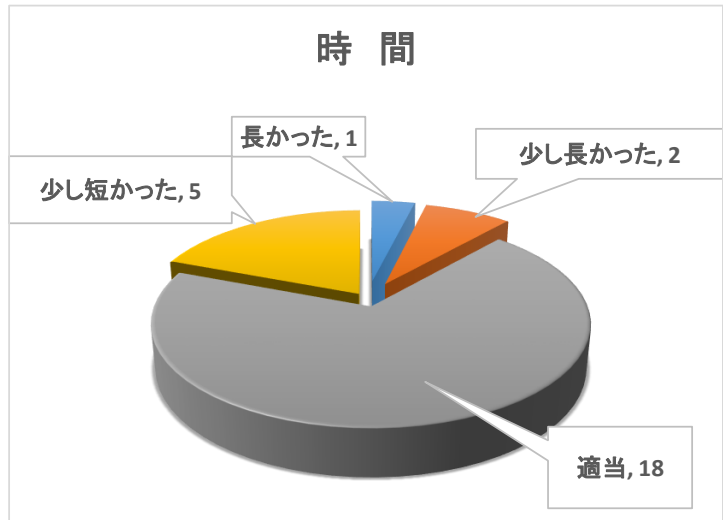
とても良かった	13
良かった	9
普通	3
悪かった	0
とても悪かった	0
無回答	1
計	26





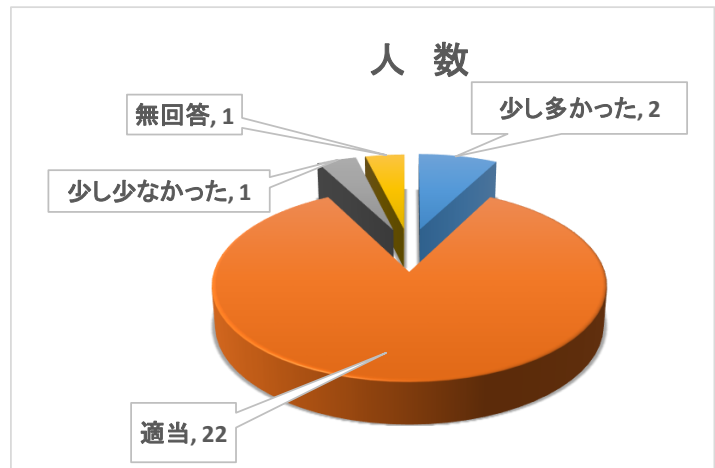
(2)意見交換会の時間は適当でしたか。

長かった	1
少し長かった	2
適当だった	18
少し短かった	5
短かった	0
無回答	0
計	26



(3)グループ会議における人数は、意見交換するのに適当でしたか。

多かった	0
少し多かった	2
適当だった	22
少し少なかった	1
少なかった	0
無回答	1
計	26



#### (4) アンケート自由意見

- ・議員の皆様には、上の声を下におろすのではなく、小さな声を、農家の人々を上げる役目、橋渡しをしてほしい。
- ・土地改良について話をしたかった。
- ・このような会議に参加できてよかった。農家生産物別の会はたくさんありますが、このように農家全体の意見交換の場を設けていただき佐倉市の農業発展につながれば良いと思います。
- ・今年の台風の発生の要因として、地球温暖化の影響もあると考える。小さなことからでもよいので、佐倉市としても何かしらの対策をして温室効果ガス削減の気運を高めてほしい。この問題が解決に向かわないと農業ができなくなってしまうと考える。
- ・東大が新品種（米）を作り、福島と佐倉で試験栽培をしようという話が上がっています。小麦の代替として、自給率が直接上がります。製粉をどうするかが課題です。
- ・農家の数はどうやっても減っていく。稲作が主の佐倉の最善の農業政策は、田のあぜを取り払って、1枚の田の面積を広げること。1枚の田が5反～1町の大きさになれば、少人数での管理が可能になり、生産収益性が上がる。そのため工事費、地主との交渉等を市がやるべきである。
- ・きれいな田園・山林風景が人を寄せ付けると思いますので、今回の災害による河川等の改修をお願いいたします。
- ・難しいとは思いますが、農業者の御用聞きというよりは、日本、千葉県、佐倉市の農業がどうあるべきか、市としてのビジョンがあってもよいし、それを話し、アイデアを出し合う場になると良いと思う。
- ・問題点がいろいろあるのがわかりました。

令和元年度佐倉市議会意見交換会の開催にあたり、ご協力をお願いした皆様には、ご多忙の中、ご参加いただきまして誠にありがとうございました。

また、この度の台風15号、19号、10月25日の大雨による被害からの復旧作業中にもかかわらず、お時間をいただきましたこと、重ねて御礼申し上げます。

我が国の農業は、耕地面積の減少や耕作放棄地の増加、農業従事者の減少・高齢化が進行しているなど、さまざまな問題が顕在化しており、それは佐倉市においても例外ではなく、危機的な状況にあると認識しております。そこで今年度は「佐倉市における農業の現状と課題について～魅力ある佐倉農業を目指して～」をテーマに、27名の農業に関わる方々に参加していただき、「生産・流通・環境」の3つのテーマを設け、意見交換会を行いました。

意見交換会では、後継者問題、品質の維持・向上、新規就農者が参入しやすい制度の見直し、直売所の検討や農作物を加工した商品の販売ルート of 構築、耕作放棄地対策、鳥獣害問題、環境保全など、農業の現状と課題について建設的、発展的な意見を交わすことができました。

私ども議員といたしましては、佐倉市の基幹産業とも言える農業を今後の成長産業として前向きに捉え、農業の持続性という観点を踏まえた農業支援等について、今後さらに研究していく必要があるものと考えております。今後とも、皆様と手を携え、「魅力ある佐倉農業」の実現に向け取り組んでまいりますので、どうぞよろしく願いいたします。

佐倉市議会 広報公聴委員会 委員長 高木 大輔  
副委員長 斎藤 明美

**令和元年度 佐倉市議会 意見交換会 報告書**

**令和2年1月発行**

**発行者：佐倉市議会**

**編集：広報公聴委員会**

委員長：高木 大輔、副委員長：齋藤 明美  
委員：松島 梢、宇田 実生子、齋藤 寛之、  
押木 孝和、密本 成章、岡野 敦、  
木崎 俊行